

群 教 ゼ	G14 - 02
	平16.220集

# 地域に愛着をもち、積極的に関わりながら 生活しようとする生徒の育成

- まちづくりに視点をあてた

地域学習「伊香保町再発見」を通して -

特別研修員 新井 信男（伊香保町立伊香保中学校）

## 《研究の概要》

本研究は総合的な学習の時間において、積極的に地域と関わりながら生活しようとする生徒の育成を目指す実践的な研究である。生徒にとって身近である地域をテーマにし、まちづくりに視点をあてる。外部講師による講義、フィールドワークを基に、興味・関心をもち自ら課題を発見し、家族や地域の方々と課題を共有しながら課題追究をしていく中で、地域との関わりを深めていこうとする生徒の育成を目指す。

【キーワード：教育課程 総合的な学習 - 中 地域学習 まちづくり 地域との関わり】

## 主題設定の理由

本校がある伊香保町は、面積の7割近くを森林に囲まれた自然豊かな地域である。古来より万葉集に詠われ、多くの詩人や文学者からも親しまれている、榛名山麓に広がる県内有数の温泉観光地である。しかし、1町1校、生徒数88名と小規模な本校の生徒たちの多くは、この地域の恵まれた自然や美術館、文学館等の文化施設に目を向けることはあまりない。徳富蘆花、竹久夢二等、地域に関わりのあった偉人についても知らないことが多く、自分をとりまく環境や地域社会に関心が低い。

本学級（中学校1年 男子14名 女子18名 計32名）の生徒は、やや積極さにかける面があり、何事に対しても教師の指示を待つことが多く、自ら考え行動したり、意見を発表したりすることはあまりない。また、日頃から何事に対しても問題意識をもつことが少なく、自分たちのクラスをよりよくしていこうとするような自主的な言動もほとんど見られない。しかし、全体的に素直であり、教師の話に強く感動したり、興味をもったことに対しては素早く行動に移すフットワークのよさをもっていたりする。総合的な学習の時間の授業に対しても、「授業が楽しい」などの理由で、ほとんどの生徒は「好き」と答え、次の授業の時間を楽しみに待っている姿が見られる。しかし、自ら情報を収集していこうとしたり、様々な工夫を行いながら課題を深く追究していったりするような態度は十分ではない。

そこで、まちづくりに視点をあてた総合的な学習の時間における地域学習「伊香保町再発見」を通して、生徒が興味や関心、感動をもって学習活動に取り組むことができると考えた。地域の特色を生かした様々な話を聴いたり、体験活動を行ったりすることにより、生徒は自己の課題を発見しやすくなる。また、課題を追究する中で、家族をはじめ、地域の人など多くの人から解決方法を学ぶことができ、生徒の問題解決能力を育てることができる。そして、地域との連携を図りながら学習を進め、学習の成果を生かしていこうとすることにより、今の自分にできることを考え行動したり、地域の方々と共に考え活動するというまちづくりによる社会参加が期待できる。このような一連の学習から、どの生徒も将来の生きる力を身に付けることができると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

地域と積極的に関わりながら生活しようとする生徒を育成するために、ふるさと伊香保を対象にした地域学習において、まちづくりに視点をあて、外部講師による地域の講義や高原学校におけるフィールドワークを行い、町主催の「まちづくり会議」に出席することにより、よりよいまちづくりを目指して地域や社会との交流を行うことの有効性を明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 テーマ設定の段階において、外部講師による講義、野外活動(フィールドワーク)を行い、地域についての知識・情報をさらに増やしていくことにより、今まで身近で何でも知っていると思っていた地域のことに改めて興味・関心をもち、自ら課題を発見し、積極的に調査活動に取り組もうとする意欲をもつことができるだろう。
- 2 テーマ追究の段階において、班別に教師との相談会を行うことにより、自分たちが今後どのような追究活動を行い、学習したことが自分たちの生活にどのように役立てることができるのかを見通すことができるだろう。
- 3 テーマ追究の結果を発表する段階において、「まちづくり」に視点を置いて学習を進めてきた成果を、町主催の「まちづくり会議」において発表することにより、地域との関わりを深め、積極的な社会参加のきっかけとすることができるだろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「地域に愛着をもつ」ことについて

生徒にとっての地域とは、学校も含め、日常生活の基本的な生活習慣を学び、実践する場である。地域社会の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する地域を十分に理解することが大切であると考え。本学習を通し、地域社会において豊かな体験の機会を増やしていくことは、地域の方とのふれあいや自然体験活動を行い、思いやりの心や、自然への畏敬の念、職業に対する考え方などを考える価値ある学習機会である。そして自分たちの地域を大切にしようとする思いから、地域に対して積極的に関わりをもとうとする意欲がもてると考える。

#### (2) 地域と積極的に関わりながら生活することについて

地域に積極的に関わりながら生活するとは、自分の身の周りのことについて関心をもち、自ら働きかけることである。地域行事、学校行事への積極的な参加・地域の環境問題、クラスの問題の解決、などいろいろな関わりがある。またそれは、自己の生き方を見つめる第一歩である。自己の生き方を見つめる学習の過程は、以下のように考える。

- A【自己理解】これまでの生活経験から自分を見つめ、自分の性格、長所・短所などをよく知ることにより、自分らしさを発見することである。
- B【社会との関わり】自分をとりまく家族、学校、地域の中で人、町、自然などとの関わり方を考えていくことである。様々な異なった環境・集団の中で、自分らしさを発揮できるような役割を考え、社会により積極的に関わりながら生活していこうとすることである。
- C【社会への働きかけ】自分をとりまく様々な社会との関わりを考える中で、身近な社会の中での使命感を意識し、その環境の向上に努めることである。現在の環境の中における自分に

できることは何かを考え、自分にあった方法で社会に働きかけていく。その関わり方、社会への働きかけ方、学び方が、その生徒の個性・生き方に通じると考える。

D【自己の創造】自分を取りまく様々な社会の中で、数多くの経験を重ね、今までの自分を振り返るうちに、これからの自分の生き方への希望・夢をもつようになる。また、希望や夢が明確でなくとも将来の自分はこうありたいという自分探しが始まり、目標に向かって努力を続けていく。

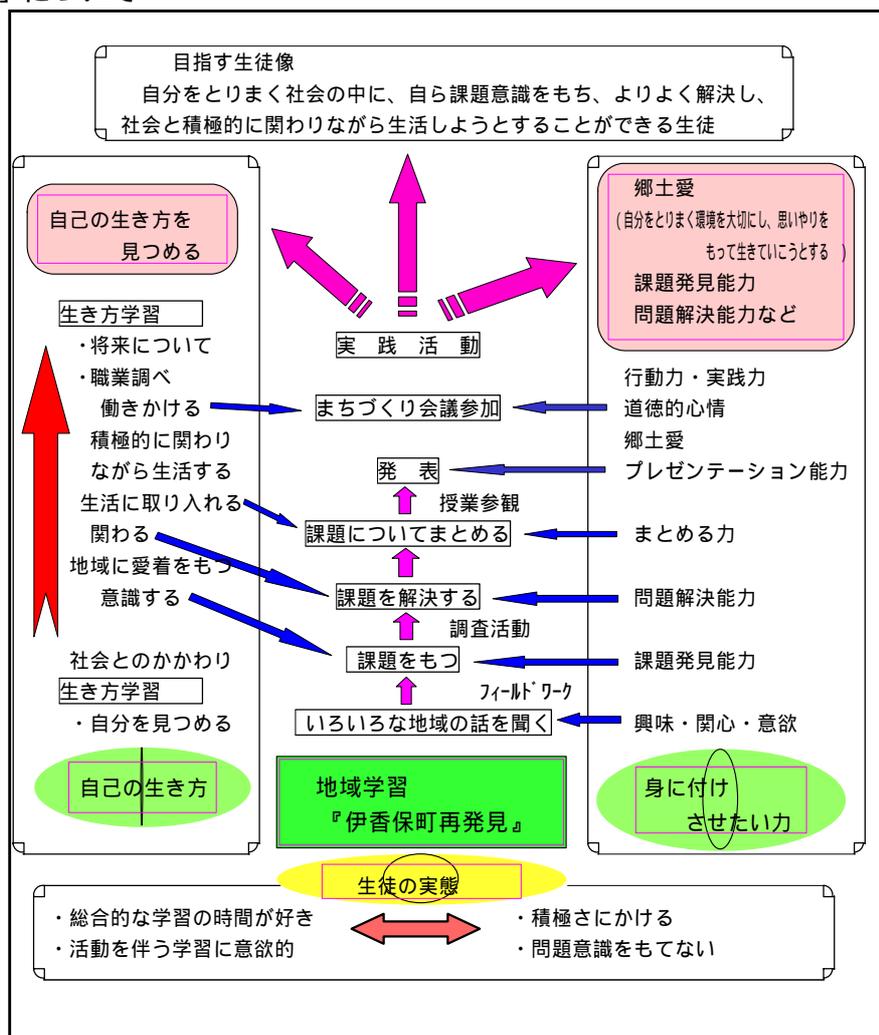
これら一連の学習活動を繰り返すことにより、生徒は身の周りの様々な問題に気づき、考え、よりよく生活していこうとして、自己の生き方を見つめるきっかけとなると考える。

### (3) 「まちづくり」について

本研究における「まちづくり」とは、社会との共生を考え、自己の生活環境をより向上させていこうとする人づくりを目的とする。自分を取りまく環境を大切にし、思いやりをもって生きていこうとする生徒の心情を育てていくことが大切であると考え。温泉観光地である伊香保町にとって、思いやりをもって人に接することは、将来生徒にとって欠くことのできない資質である。また、「まちづくり」は、地域から学んだことを地域に還元する最適な手段である。自分たちの住む町が素晴らしいところであって欲しいという当然の思いから、必然的に「まちづくり」への参加が始まるのである。「まちづくり」ということを意識することにより、自分たちの町を自分たちで創っていこうとする自主的な態度や心情が育っていくと考える。

### (4) 「まちづくり会議」について

「伊香保まちづくり会議」とは、町主催による住民と行政の共同による町の将来を考える取り組みである。中学生がこの会議に参加する意義は、「学習成果の発表（発信）の場」「多くの人々との交流の場」「調べたことを実践に移す機会の場」である。学校から地域へ出て、学習成果を多くの人に聞いてもらうと同時に、生徒たちには多くの意見、感想が返ってくることになり、より生徒の学習が広がり、いろいろな考え方、学び方を学ぶことができる。発表では、課題に対しての自分たちなりの考え（提言）を発表し、地域社会に対し、自分たちなりの方法で働きかけをしていく。



全体構想図

## 2 実践の概要及び結果と考察

(1) 自ら課題を発見し、積極的に調査活動に取り組もうとする意欲をもつことができたか。

(見通し1)

### ア 実践の概要

テーマ設定の段階において、地域についての知識・情報を増やすため、生徒が興味をもっている自然、温泉、観光の3つのテーマについて外部講師による講義を行ったり、榛名山を中心とする野外活動(フィールドワーク)を実施した。

### イ 結果と考察

#### 外部講師による講義

外部講師による地域についての講義を行った結果、生徒たちは自分が住んでいる地域でありながら、予想以上に知らないことが多いことを実感したため、興味をかき立てられた。特に石段を中心に町が形成されたという歴史的な話や、温泉に武士が治療にやってきたことなどの話には興味をもち、地域の貴重な情報を短時間に得ることができた。

#### 榛名山を中心とする野外活動(フィールドワーク)

山の名前(正式名称、通称)、榛名山の火口、火山活動、森林の働き、水の流れ、動植物などの地域学習を、自分たちの目で実際に確認しながら行った。生徒のほとんどが、このように長い距離を歩いて地域を散策することは初めてであった。「ここもまだ伊香保なんだ」と、改めて自分たちの町が自然に恵まれた地域であることを実感した。その後、地域についてさらに調べてみたいこと、疑問に思ったことなどを個人テーマとし、テーマの似た生徒同士でグループのテーマを決定した。教師のアドバイスを受けながら、全員の生徒が自分の課題を見だし、追究しようとする意欲が高まった。



野外活動(フィールドワーク)

(2) 自分たちの学習に見通しをもつことができたか。(見通し2)

### ア 実践の概要

テーマ追究の段階において、教師からの質問に答えながら、テーマや今後の学習計画の確認を行うために、面接形式の相談会を行った。

### イ 結果と考察

この学習はテーマについて調べることに以上、調べた結果をどのように生活に生かすことができるのかを考えることが目的であることを伝えた。そのため、自分たちの追究活動の結果、「地域にはこのようなすばらしいところがあった。こんな不思議なことがあった。」というように、地域に対して愛着がもてるような意見を多く出させ、そのような気持ちから地域に対して「何か自分たちにできることがしたい」という気持ちに自ずからなるよう言葉掛けをしていた。そして、基本的に次の質問を行うことを繰り返し確認した。

#### 質問内容

##### 追究段階前半

「このテーマを追究するために、  
どんなことを調べますか。」  
「どのような方法で追究していきますか。」  
「このテーマを追究することにより、どんなことが明らかになっていくと思いますか。」  
「このテーマを追究することは、  
自分たちの生活にどのように役立ちますか。」

#### 各班のテーマ

- 1班『石段の歴史を明らかにし、パンフレットにしよう』
- 2班『石段の歴史について明らかにし、  
かわらぬまま残そう』
- 3班『動植物などの様子を調べ、伊香保の自然を守ろう』
- 4班『温泉の成分を明らかにし温泉で健康になろう』
- 5班『伊香保に関わりのある人物を調べ、  
生き方を学ぼう』
- 6班『姉妹都市とは？交流について明らかにし、  
互いに理解し合おう』

『石段タイム』の学習活動計画を立てよう  
 一学年をとおしての学習活動計画を立てよう、

三年 3/10

『伊香保町再発見』	
1. 目的	このテーマをとおして、伊香保町の歴史や文化について、小学生や観光客の人たちにパンフレットを配り紹介したい。
2. 活動計画	① 伊香保の歴史や文化について調べる。 ② 伊香保の歴史や文化について調べる。 ③ 伊香保の歴史や文化について調べる。 ④ 伊香保の歴史や文化について調べる。 ⑤ 伊香保の歴史や文化について調べる。
3. 評価方法	① 伊香保の歴史や文化について調べる。 ② 伊香保の歴史や文化について調べる。 ③ 伊香保の歴史や文化について調べる。 ④ 伊香保の歴史や文化について調べる。 ⑤ 伊香保の歴史や文化について調べる。
4. 活動計画	このテーマをとおして、伊香保町の歴史や文化について、小学生や観光客の人たちにパンフレットを配り紹介したい。
5. 活動計画	このテーマをとおして、伊香保町の歴史や文化について、小学生や観光客の人たちにパンフレットを配り紹介したい。

活動計画表(1班)

1班では、 の質問に対し、結果をパンフレットにまとめ、たくさんの人に見てもらいたいということであった。「誰に見てもらいたい?」という具体的な質問を投げかけたところ、地域学習を行っている小学生に調べたことを教えてあげたいという答えが返ってきた。中間発表会後の友達の意見から、「小学生にわかりやすい簡単な言葉で、絵を多く入れたパンフレットにしたい。」と作成に関する方向性がはっきりもててきた。中間発表会後の相談会では、「パンフレットを配っただけで見てもらえるかな?」という質問に対し、「小学校へ説明に行きたい。」という答えが返ってきた。テーマを設定した段階では、ただ漠然と調べたことをパンフレットにまとめたいということであったが、相談会や学習を進めるにしたがって徐々に地域と関わりをもてそうな見通しが立ってきた。

5班のA男は徳富蘆花について調べ、「蘆花のいろいろなことがわかった。」と満足そうであった。しかし、中間検討会後の相談会において、「人物を調べてどうなるのだろう?」という質問に対して、

明確に答えることができなかった。「みんなも蘆花や夢二のようになれるかな?」という質問には、「なれない」という答えがすぐに返ってきた。「でも、もしかしたら、みんなの中にも将来蘆花や夢二のようになれる人が出るかもよ」「伊香保から出したいね」など、教師との質問やアドバイス等のやりとりにいろいろ悩んだ結果、自分たちも徳富蘆花や竹久夢二に近づくために、伊香保を題材に作品をつくってみようということになった。有名な作家たちが選んだように、伊香保のすばらしい風景を選び、絵や俳句を作ってクラス大会や校内大会をやってみようという実践活動への見通しをもつことができた。早速、自分たちだったら伊香保のどこを被写体として選び、どのような作品が生まれるかを検討し始めた。

学んだことをどのように役立てるか		* 追究活動開始時・ 中間発表後	
1班	テーマ『石段の歴史を明らかにし、パンフレットにしよう』	小学生や観光客の人たちにパンフレットを配り紹介したい。	小学生にわかりやすく、簡単な言葉で、なるべく絵を多く入れたパンフレットをつくりたい。観光客用もつくりたい。
5班	テーマ『伊香保に関わりのある人物を調べ、生き方を学ぼう』	有名な人のすごいところを参考にして、自分たちもすごい人になろう。	地域の自然を題材に、俳句や詩、絵画の大会を行いたい。

(3) 地域社会との関わりを実感し、地域社会の一員としての責任を自覚したり、社会への働きかけができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

学習全般において、「まちづくり」に視点を置いて学習を進めてきた。地域との連携を図り、グループごとに地域へ出かけ調査活動を行ったり、友達・家族・地域の方と相談しながら学習を進めることにより、地域との関わりがより深まり、地域に対しての愛着ももつことができた。また、三学期に、町主催の「まちづくり会議」に出席することにより、積極的な社会参加のきっかけとなるとともに、社会への働きかけができると考えられる。

イ 結果と考察

地域を題材にした学習であるため、課題追究段階において地域へ出かけ、実際に見たり聞いたりして調べることが多かった。地域の神社へ直接行って質問をしたり、石段街、役場、小学校などにアンケートの協力をしてもらうなどの活動を行った。姉妹都市について調べている班では、伊香保町だけでなく渋川、前橋、太田など他の地域の市役所等とも連絡を取り合いながら追究活動を行った。外部の方との交流に、生徒たちはとても緊張をしていたが、回数を重ねるうちに手際よく活動を進めることができるようになってきた。インタビュー、アンケートなどの協力をしてもらった方には、自分たちの学習の成果を紹介したり、お礼の手紙を出したりするように指導した。外部の方との交流が、地域との関わりを一層深めていった。特に、学習後の感想から、自分たちの質問に対して大人が真剣に返答してくれ、喜びや感動を感じるとともに、社会の一員としての責任のようなものを感じ始めてきたことがうかがえた。

このような学習を重ねることにより、生徒は地域に愛着をもち始めてきた。5班のA男は班の提言を考える話合いの中で「伊香保の自然を大切にしよう。」が良いのではないかと提案した。どうしてそのような提言にしようと思ったのかを聞いてみると「蘆花や夢二が気に入ってくれたのは自然のおかげだから。だから自然を大切にしたい方がいい。」ということだった。これは「自分たちが住む町、地域はすばらしいところがたくさんある。もっとすばらしい町にしたい。町に貢献したい。何かできることはないだろうか。」という気持ちの表れであると考えられる。この気持ちが「まちづくり」への第一歩である。また、地域学習の結果を、自分たちの生活が今まで以上に生活しやすくなったり、人のためになるようなことがあれば、それはすべて「まちづくり」につながることを話し合ってきた。そのため生徒は、調べた結果の今後の生かし方を考えるようになった。学習のまとめの段階でも、自分たちの考えを班の提言としてまとめ発表し、クラス全体で検討することにより実践活動に向けての意欲を高められた。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

生徒にとって生活の基盤である伊香保町を大テーマにしたことにより、課題設定がしやすく、課題追究の段階では地域との関わりを深めることができた。自分たちの町に予想以上に興味深いことや、不思議なこと、すばらしいところがあることに気づき、地域に対し愛着が湧いてきた。この調査の結果をみんなに知らせたい、もっとすばらしい町にしたい、等の気持ちから実践活動に向けての意欲も出てきた。「まちづくり」に視点をおくことにより、追究結果をどうしたらまちづくりに生かしていくことができるのかを考えるようになり、実践活動へ結び付けやすくなった。そして、追究結果を提言としてまとめ、地域社会に対して自ら働きかけることができた。これは、地域と関わりながら生活をする、地域社会への参加の第一歩となった。

### 2 今後の課題

授業の様子やその時の自分の気持ちを文章にすることが苦手な生徒は、次の授業では前時の活動を思い出すことができず、スムーズに次の活動へ移れないことがあった。活動計画等のワークシートを工夫したつもりであったが、生徒が本時の学習をしっかりと記録することができるような指導の工夫が必要であると感じた。また、生徒たちの実践活動への期待から、教師主導の学習となる場面があったように思う。今後は、生徒が自発的に活動したいと思うような、深まりのある追究活動ができるための指導の一層の工夫が必要であると考えられる。

### 参考文献

- ・寺本 潔 著 『総合的な学習で町づくり』明治図書（2001）